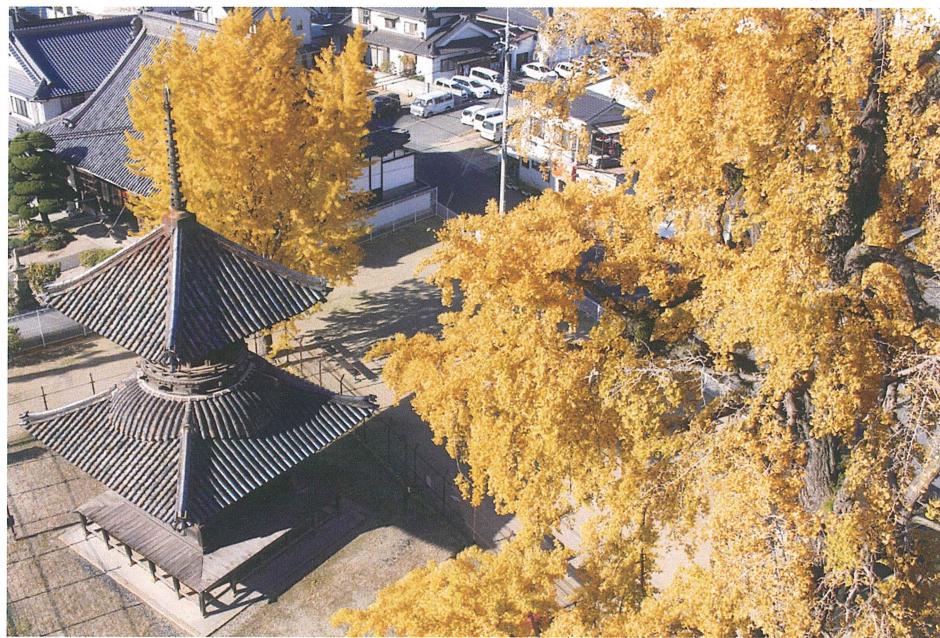


[本編]

第1章

笠岡市歴史文化基本構想の策定にあたって



遍照寺多宝塔と枝垂れいちょう

1 - 1 構想策定の背景と趣旨

笠岡市には国指定文化財が11件、県指定文化財が13件、市指定文化財が60件、国登録有形文化財が5件、国登録有形民俗文化財が1件ある(40~44ページ参照)。こうした文化財は歴史的な価値や学術的な価値、あるいは芸術的な価値などの観点から重要であるとして保護が図られてきた。一方で、地域の歴史を物語る歴史文化遺産の多くは、例えば、古くからの伝承や生活の中に根づいた伝統行事など、そうした価値付けと関係なく地域の中で大切に受け継がれてきたものである。

人口減少や少子高齢化による担い手が減少傾向にあり、継承が困難になりつつある歴史文化遺産もある。こうした中、地域の歴史文化遺産を次世代に引き継ぎ、地域の魅力として観光や地域活性化、教育などの様々な分野で歴史文化遺産を活用していくことが求められている。

市内にある全ての歴史文化遺産を保護していくことは、現実的に困難である。そのため、個々の歴史文化遺産の持つ価値を的確に把握して、笠岡市として何をどのように保存・活用していくのかという基本方針が必要となっている。そこで、行政だけでなく、市民の皆さんや市民団体、専門家、企業などと連携し、歴史文化遺産の保存・活用の取組を地域の活性化につなげ、笠岡市の魅力を高めていくために「笠岡市歴史文化遺産」を策定する。

1 - 2 構想の位置付け

(1) 歴史文化基本構想について

「歴史文化基本構想」とは、「地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉え、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護を進めるための基本的な構想となるもの」(『「歴史文化基本構想」策定ハンドブック』)である。

構想を策定することにより、歴史文化遺産が有する多様な価値の顕在化につながり、他の歴史文化遺産や周辺環境を一体的に保存・活用することの必要性が周知され、歴史文化遺産を保護するという気運の向上にもつながる。また、歴史文化遺産を核とした地域の魅力の増進につながり、地域との連携協力の推進が図られることも期待できる。一方で、関係機関との連携も不可欠であることから、他の行政分野との連携を図るための契機になると考えられる。

用語の定義

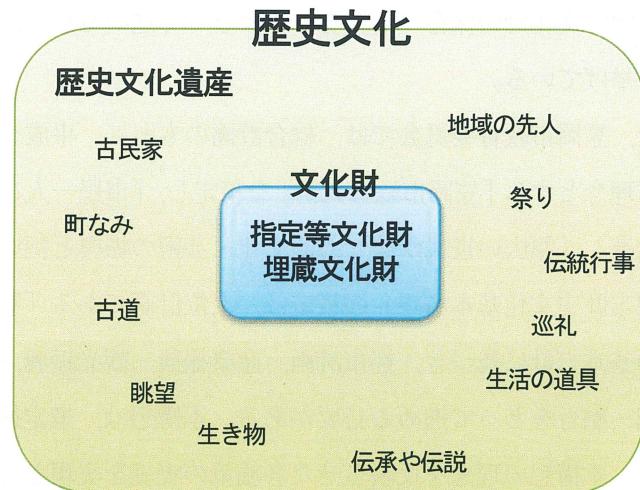
「文化財」、「歴史文化遺産」及び「歴史文化」

「笠岡市歴史文化基本構想」では、「文化財」は「文化財保護法」において指定・選定・登録・選択を受けている文化財（以下「指定等文化財」）と埋蔵文化財を指す。国、岡山県及び笠岡市のこの指定等文化財は「有形文化財」（遍照寺多宝塔や大飛島祭祀遺跡出土品など）、「無形文化財」、「民俗文化財」（白石島や大島の傘踊りなど）、「記念物」（カブトガニ繁殖地や津雲貝塚など）、「文化的景観」、及び「伝統的建造物群」及び「文化財の保存技術」に分類されている。また、埋蔵文化財も、文化財保護法に基づいて保護が図られてきた。

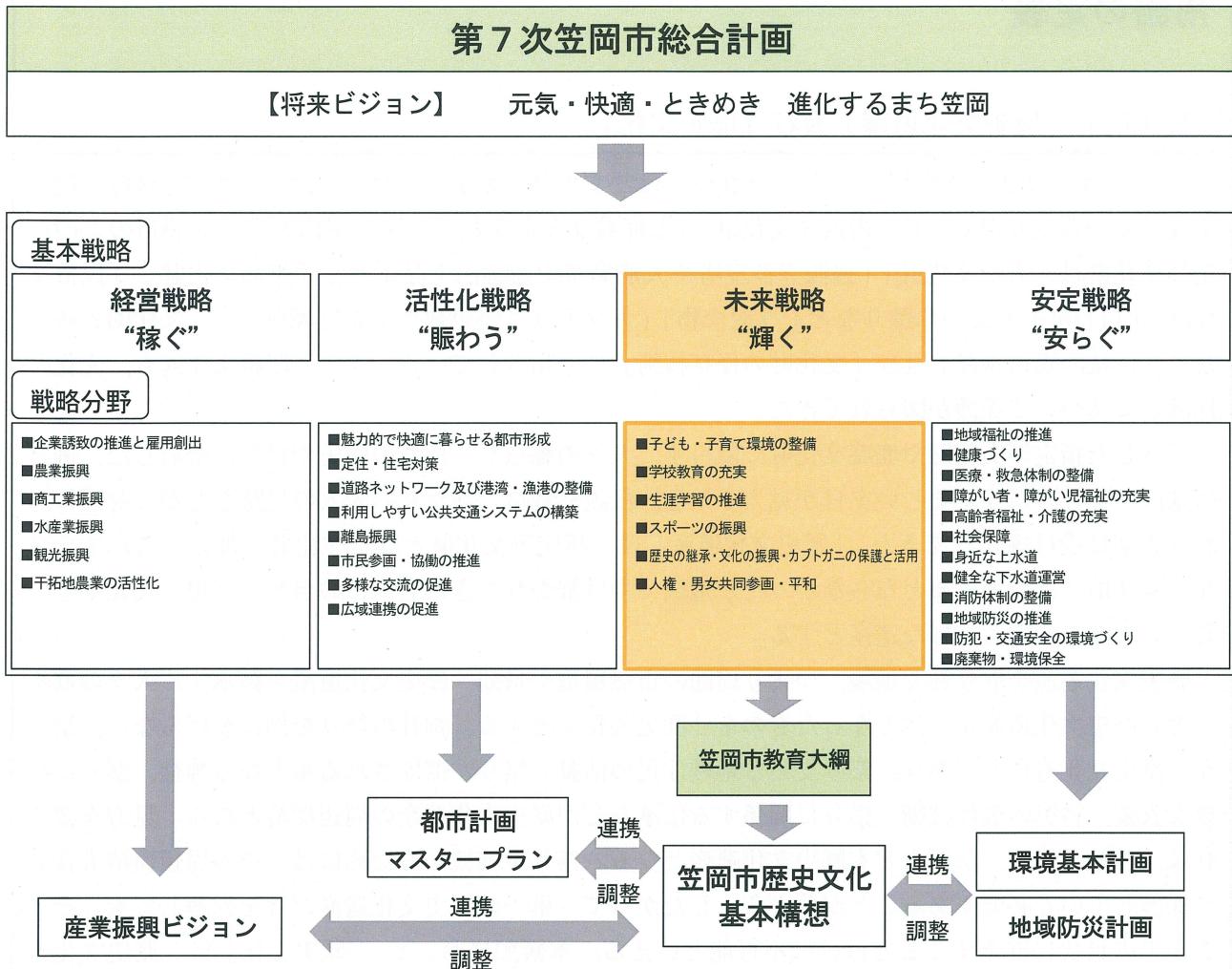
こうした指定等文化財や埋蔵文化財に限らず、人々の暮らし、地域の歴史や自然に密着した、例えば地区の神社の祭りや美しい夕日が見える景色、伝説や地域にゆかりの先人の足跡などが、身近に思われ大切に受け継がれてきた。「歴史文化遺産」は、指定等文化財と埋蔵文化財に加え、これまで必ずしも法的には保護対象とならなかったが地域で受け継がれてきた笠岡市の自然、歴史、文化そして暮らしなどを伝える多様な遺産とする。

歴史文化遺産を取り巻く環境、つまり周囲の自然環境や景観、歴史文化遺産を継承する人々の取組などと歴史文化遺産が一体となったものを「歴史文化」とする。神社の祭りを例に挙げるなら、祭りが「歴史文化遺産」であり、祭り支える地域住民の活動、祭りが開催される場となる神社、祭りに必要な衣装、神輿の製作技術、祭りに関する伝承などが歴史文化遺産の周辺環境となる。見方を変えれば、神社や技術、伝承なども歴史文化遺産となる。祭りを継続するためには、その周辺環境も含めて保護していく必要があることが分かる。したがって、単一の歴史文化遺産だけを保護しても、それを未来の世代に継承することはほぼ不可能といえる。本構想において、「歴史文化」は、歴史文化遺産の保存・活用を進めていく上で欠かせない概念となる。

■ 「文化財」、「歴史文化遺産」及び「歴史文化」の概念図



(2) 歴史文化基本構想の位置付け



平成30年(2018)4月に策定した「第7次笠岡市総合計画」(計画期間：平成30年度(2018)～2025年度)において、笠岡市の目指す将来都市像として将来ビジョン「元気・快適・ときめき 進化するまち笠岡」を掲げている。この将来ビジョンの実現に向けて4つの基本戦略と1つの計画推進戦略を設定した。基本戦略『未来戦略“輝く”』の中には6つ戦略分野があり、そのひとつ「歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」の中で文化財の保存・活用を一体となって進めるために「笠岡市歴史文化基本構想」の策定に取り組むことを挙げている。

また、笠岡市教育委員会では、総合計画のもとに、平成30年度に「学ぶ楽しさ 輝く個性 生き抜く力」を基本理念とする「笠岡市教育大綱」を策定し、「市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進」、「幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成」などを基本方針として示している。

「笠岡市歴史文化基本構想」の策定は、上位計画である「笠岡市総合計画」の基本戦略及び「笠岡市教育大綱」の基本方針に基づき、都市計画、産業振興、観光振興、環境保全、地域防災などの各分野の施策や計画と連携・整合をとって進める必要がある。本構想は、策定後には歴史文化の面から各施策の推進を支えるとともに、本構想の理念を反映させた各施策の実施を実現させるための役割も担うものとする。

(3) 策定体制と経緯

笠岡市内の多様な分野の歴史文化遺産の特徴を的確に把握するとともに、市民の意見を踏まえた、わかりやすく、共感できる構想をとりまとめるため、平成29年（2017）2月に笠岡市歴史文化基本構想策定委員会設置要綱を定め、学識経験者、市民の代表及び府内関係部局で組織する「笠岡市歴史文化基本構想策定委員会（以下、「委員会」）」を組織した。

また、委員会に加え、各地域の活動団体の代表者で組織する「笠岡市歴史文化基本構想ワーキンググループ（以下、「ワーキンググループ」）」と、府内関係部局で構成する「笠岡市歴史文化基本構想府内検討会議（以下、「府内検討会議」）」を設置し、市民意見の反映や府内関係部局の連携・調整を図りながら構想の策定を行った。策定に当たっては、委員会での審議に加え、ワーキンググループ及び府内検討会議においても検討を行った。さらに、平成29年度（2017）には現地聞き取り調査（36～39ページ参照）や市民アンケート（98～102ページ参照）、若い世代に向けたワークショップを行い、市民意見の把握等に努めた。

平成30年（2018）12月の委員会で「笠岡市歴史文化基本構想（素案）」を審議し了承された。同月から平成31年（2019）1月にはパブリックコメントを実施し、平成31年（2019）3月に構想が完成した。

その他に、平成30年（2018）11月28日には歴史文化基本構想講演会「歴史遺産を活かして、もっと輝く笠岡市に」を開催し、構想策定の意義などについて周知を図った。平成31年（2019）3月17日にシンポジウム「歴史文化を活かしたまちづくり」を開催し、構想内容等を報告した。

■構想策定体制



■笠岡市歴史文化基本構想策定委員会の構成

区分	分野	役職	氏名
学識 経験者	建築	山陽学園大学教授	瀧谷 俊彦
	民俗	岡山学院大学教授	尾崎 聰
	考古	笠岡市文化財保護委員 元倉敷考古館学術顧問	間壁 忠彦 (～平成 29 年 12 月 28 日)
	考古	倉敷埋蔵文化財センター	藤原 好二 (平成 29 年 12 月 29 日～)
	古文書	井原市教育委員会研究員 笠岡市文化財保護委員	首藤 ゆきえ
市民	国指定文化財保存団体	白石踊会理事	天野 正
	観光関係者	笠岡市観光ガイドボランティア会長	岡本 満雄
	観光関係者	笠岡市観光連盟会長	天野 雄二郎
	マスコミ関係者	笠岡放送株式会社代表取締役会長	枝木 恭平
	公募市民	公務員	雲井 秀佳
庁内	観光担当課	商工観光課長	中嶋 徹 (～平成 30 年 3 月 31 日)
			石井 善子 (平成 30 年 4 月 1 日～)
	総合計画・離島振興担当課	企画政策課長	水田 卓志 (～平成 29 年 3 月 31 日)
			河田 博之 (平成 29 年 4 月 1 日～)
事務局	生涯学習課		

■笠岡市歴史文化基本構想策定委員会

回	開催日	会場	主な議題
第1回	平成 29 年 2 月 28 日 (火)	笠岡市分庁 第 4 大会議室	・委員長・副委員長選出 ・笠岡市歴史文化基本構想策定の趣旨について ・事業全体の概要とスケジュールについて
第2回	平成 29 年 11 月 24 日 (水)	教育委員会 会議室	・笠岡市歴史文化基本策定事業の経過について ・歴史文化の特徴の素案と主な構成文化財について ・今後のスケジュールについて
第3回	平成 30 年 3 月 22 日 (木)	中央公民館 研修室	・笠岡市歴史文化基本構想策定事業の経過について ・笠岡市の歴史文化の特徴及び関連文化財群についての考え方 ・歴史文化遺産の保存・活用の方針について ・今後のスケジュールについて
第4回	平成 30 年 8 月 8 日 (水)	教育委員会 会議室	・笠岡市歴史文化基本構想策定事業の経過について ・笠岡市の歴史文化のストーリーについて ・歴史文化を活かしたまちづくりの進め方について ・今後のスケジュールについて
第5回	平成 30 年 12 月 1 日 (土)	教育委員会 会議室	・笠岡市歴史文化基本構想策定事業の経過について ・笠岡市歴史文化基本構想の素案について ・今後のスケジュールについて

■笠岡市歴史文化基本構想庁内検討会議の構成

担当部局	
市民生活部	環境課
政策部	企画政策課
政策部	協働のまちづくり課
産業部	商工観光課
建設部	都市計画課
教育委員会 教育部	学校教育課
教育委員会 教育部	生涯学習課
事務局	教育委員会 教育部 生涯学習課

■笠岡市歴史文化基本構想庁内検討会議

回	開催日	会場	主な議題
第1回	平成29年 11月10日（金）	教育委員会 小会議室	(1) 業務全体の概要と策定スケジュールについて (2) これまでの経過について (3) 歴史文化の特徴及び関連文化財群の検討
第2回	平成30年 3月23日（金）	教育委員会 小会議室	(1) これまでの経過について (2) 笠岡市歴史文化の特徴及び関連文化財群についての考え方 (3) 歴史文化遺産の保存・活用について
第3回	平成30年 7月23日（月）	教育委員会 小会議室	(1) これまでの経過について (2) 各課の歴史文化に関する取組について (3) 歴史文化を活かしたまちづくりの進め方について (4) 今後のスケジュール
第4回	平成30年 11月12日（月）	教育委員会 小会議室	(1) これまでの経過について (2) 笠岡市歴史文化基本構想の素案について (3) 今後のスケジュール

■笠岡市歴史文化基本構想ワーキンググループの参加団体

団体	主な活動地区
北川の昔を訪ねる会	北川地区
にいやま「文化を楽しみ育てる会」	新山地区
エヒメアヤメ保護育成会	吉田地区
大井文化探訪の会	大井地区
今井を訪ね・語ろう会	今井地区
笠岡町の歴史を知る会	笠岡地区
陶山郷土史研究会	陶山地区
金浦歴史研究会	金浦地区
城見郷土史関係者	城見地区
大島郷土史研究クラブ	大島地区
白石踊会	白石島
笠岡市観光ガイドボランティア	笠岡市全域
笠岡を歩く会	笠岡市全域

■笠岡市歴史文化基本構想ワーキンググループ

回	開催日	場所	主な議題
第1回	平成29年 3月29日（水）	笠岡市分庁 第4大会議室	「笠岡市の文化・歴史などの資源について」 ・笠岡市の文化・歴史などの資源について検討 ※ワークショップ形式で実施
第2回	平成29年 12月19日（火）	笠岡市分庁 第4大会議室	「笠岡市の歴史文化の特徴について」 ・市内の歴史文化等の特徴及び文化財群の検討 ※ワークショップ形式で実施
第3回	平成30年 3月28日（水）	笠岡市分庁 第4大会議室	「笠岡市の歴史文化の保存活用について」 ・笠岡市の歴史文化遺産の保存・活用に関する検討、資源の整理・ストーリーについて ※ワークショップ形式で実施
第4回	平成30年 11月29日（木）	中央公民館 集会室	「笠岡氏歴史文化基本構想（素案）について」 ・素案の概要説明、素案に対する意見等 ※会議形式で実施

■若者を対象とする「文化財でまちづくりワークショップ」

開催日	場所	主な議題
平成30年 3月24日（土）	教育委員会 会議室	「笠岡市の文化・歴史資源の活用を考えよう！」 ・知っている歴史文化遺産や地域資源を出し合う ・歴史文化遺産や地域資源の活用のアイデアを提案 ・笠岡高校の生徒によるポスターセッション



■笠岡市歴史文化基本構想 策定の流れ

